

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 志井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

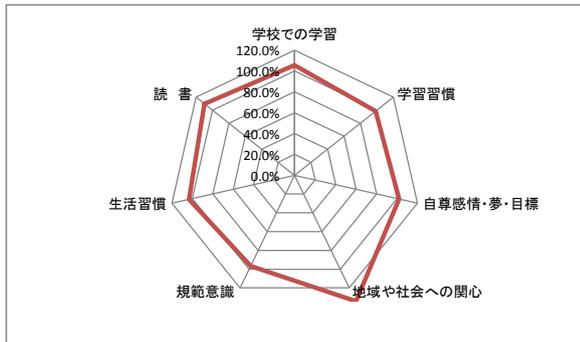
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「話すこと・聞くこと」の正答率がやや高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	インタビューの目的に応じて、質問を工夫する問題	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率をやや下回っていた。特に「数量関係」の領域の問題が正答率をやや下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	示された除法の式の意味を理解する問題	
	努力が必要な問題	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会への関心が高く、地域行事に参加する児童が多い。 ・一日あたりの読書している時間が全国平均よりやや多い。また、読書が好きと答えている児童の割合も多くなっている。 ・家で自分で計画を立てて勉強している割合がやや少なく、学校の授業以外の1日の学習時間も短い児童が見られる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

一時間の授業時間において自分の考えをもち、交流し合う時間を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

自主学習や家庭学習チャレンジハンドブックの活用等を行い、生活習慣や学習習慣の見直しを図るように家庭と連携する。